opusdei.org

属人区長の書簡 (2013年11月)

徒信条、最後の2つの条項 「からだの復活、永遠の命を 信じます」についての考察で す。

2013/11/15

愛する皆さん、イエスが私の娘たちと息子たちをお守りくださいますように!

数週間後の24日、王であるキリストの祭日には、教皇様の閉幕宣言で信仰年が終わります。このことから

も、創立者の説教を再読するよう勧 めたいと思います。そこにはこう書 かれています。「使徒信条を唱える とき、全能の神と、御死去ののち復 活された御子イエス・キリスト、生命 の主であり与え主である聖霊への信 仰を宣言します。そして『唯一の』 『聖なる』『普遍の』『使徒的な』 教会は、聖霊によって生命を与えら れたキリストの神秘体であると、信 仰告白します。さらに罪の赦しと未 来の復活への希望に喜ぶのです。し かし、このような真理は心の底まで 浸透しているのでしょうか。それと

今日祝う諸聖人の祭日、そして明日の死者の記念日は、私たちが永遠の目的を意識するようにと促してくれます。この記念日の典礼には信仰の最終章が反映されています。事実

もただ口先だけにとどまっているの

でしょうか。 I [i]

「キリスト教の信条 - 父と子と聖霊 である神、創造と救いと聖化のわざ についての信仰宣言 - は、世の終わりの死者の復活と永遠のいのちの宣言においてその頂点に達します。」 [ii]

主のみ教えのお陰で、長い歴史の中でかつて多くの人に見られ、そして今も抱かれる、究極の現実に対するもの悲しさや宿命論は姿を消します。肉体の死は誰にとっても明白な

現実ですが、それはキリストにおい て新たな意味を持つものになりま す。死は、体が単に物的被造物であ るがゆえに必然的に崩壊に向うとい うことでもなく、またーすでに旧約 聖書が教えるように-罪の罰である ということでもありません。聖パウ 口が述べています。「わたしにとっ て、生きるとはキリストであり、死 ぬことは利益なのです。| そして別 の機会にこう言い添えています。 「次の言葉は真実です。『わたした ちはキリストと共に死んだのなら、 キリストと共に生きるようにな る』。」「iii」「キリスト教的死の本 質的な新しさとは、キリスト者は新 しいいのちに生きるためにすでに洗 礼によって秘跡的には『キリストと ともに死んで』おり、わたしたちが キリストの恵みのうちに死ぬなら ば、肉体的な死はその『キリストと 共に死ぬこと』を完遂し、わたした ちをキリストのあがないのわざに完

全に組み入れるということです。」 [iv]

教会はいつの時代でも母です。洗礼 においてキリストのいのちを私たち に与えて生き返らせ、それと同時に 永遠の命を約束します。それから、 他の諸秘蹟を通して一特にゆるしの 秘跡と聖体を通して – キリストの中 に「留まり」「歩む」ことが霊魂内 で展開することを教会は引き受けま した。そして、大病を患い、何より も、死期が迫ると、あらためて子ど もたちに近づき、病者の塗油と旅路 の糧としての聖体拝領で元気付けて くれます。私たちが神の恩恵によっ て天の御父に迎えられることで終え る旅路を、喜ばしい希望と平和に満 ちて全うするために必要な全てのこ とを、教会は準備してくれます。聖 ホセマリアは、過去現在の多くの聖 人と同じように、キリスト者の死に ついて話し、明快で楽観的な言葉を 残しています。「死に対して恐れを

抱かないように。今から広い心でいように。今から広い心でいます。今から広い心が望みの時でいた。 お望みの場所でいたなる死を受け入れるのではなられるのでいた場所、最も適した方法でいる。 した場所、最も適した方法でいる。 したはならない。 私たちのを喜んで受け入れることができまうに。 [v]

もう直ぐ神にまみえるばかりになっている多くの人たちーオプス・ディの人々やその親戚、友人や協力者ーのことが脳裏に去来します。このような全ての人たちのために、彼らがイエス・キリストに固く一致して、平和のうちに、聖なる死を迎えることのできる恩恵を願っています。

「復活した主は、なくなることも欺くこともない希望です(ローマ5,5参照)。(…) わたしたちは人生の中で、何度、希望を失ったことでしょうか。何度、心に抱いた期待が実現し

なかったことでしょうか。わたした ちキリスト信者の希望は、地上にお いても力強く、安定し、堅固であ り、永遠の命へと開かれています。 神がこの地上を歩むよう招いてくだ さったからです。この希望は、つね に忠実な、神を土台としているから です。」[vi]

この死者の月に、「カトリック教会 のカテキズム | の四終に関する章を 再読し、黙想するようお勧めしま す。そこから、希望と超自然的な楽 観主義を引き出し、そして日々の内 的戦いに新たな弾みをつけることが できるでしょう。この時期、多くの 場所で、墓地を訪れることが信心深 い伝統として続けられています。こ のことも使徒職の対象になっている 人たちが永遠の真理を考察し、優し い父として私たちに付き添い、呼び かける神をますます真剣に探し求め るように促す機会になるでしょう。

善をなし、神の御前に功徳を積む時が死によって終わり、すどに各人にとって終われます。確か行なわれます。確か行なわれますでありるがの一部であけるであけるが、人生につの不はを受けるかいを受けるかいは直ちに永遠のないは直ちに永遠のないは直ちに永遠のないは直ちに永遠のないは直ちに永遠のないは直ちに永遠のです。」[vii]

この審判においては特に、掟と自分の義務を忠実に果たすことに表明される神と隣人への愛について、常にして、現代の多くの人が、常がことも思っているのない。型でも思ってしません。単れるともではしたようにとも死ぬことも死ぬことも死ぬことも死ぬこともでははないません。 | 私たちが固い信仰に

その上、-喜びに満たされることですが-教会は子供たちを死後もも忘れることはないのです。教会はよいのです。教会して、ミサ毎に、死者の霊魂がらや光に受け入れられるようがります。特に11月は、特に気を配りがはから煉獄の霊魂への祈りが強められます。教会の一部分であるオプストでは、この教会の望みにマリア応えて、11月のために聖ホセマリア

が勧めることを愛情と感謝の気持ち で果たして行きます。亡くなったオ プス・デイの信者のため、親戚や協 力者のため、そして煉獄の全ての霊 魂のために、ミサ聖祭と聖体拝領を 寛大に捧げます。四終についての考 察は、悲しみではなく超自然的な喜 びをもたらすということが分かるで しょう。心から信頼して、キリスト が全ての天使と共に来臨しその王国 を築く世の終わりと、神の最終的な 招きを待ちましょう。そのときに は、世の初めから終わりまでの全て の人々がよみがえるのです。

「カトリック教会のカテキズム」は、このこと(死者の復活を信じること)を「教会の初めからキリスト者の信仰の本質的要素の一つだった」 [ix]

と強調しています。それゆえ、当初から教会は無理解や反対に遭いました。次のような反応です。「死後、

人間のいのちが霊的な状態に生き続 けられるということは広く一般に認 められていますが、この確かに朽ち るはずの肉体が永遠のいのちによみ がえるなどということが、どうして 信じられるでしょうか。 | [x]しか し、世の終わりには神の全能の力に よって、確かにこのことが起こるの です。アタナシウス信経がこう強調 しています。「全ての人は肉体と共 に復活し、それぞれの行為の報告を 行い、善を行なった人は永遠の生命 に到り、悪を行なった者は永遠の火 に入るであろう。| [xi]

父なる神の寛大さには驚くばかりです。私たち人間を、霊魂と肉体、精神と物質からなる存在として創造し、後の世では、その状態で、恵をした。主の美しさ、主の知恵なりがである一人の婦人がある。被造物である一人の婦人に先の特別な御計らいで、私たちに先の特別な御計らいで、私たちにおらって復活の栄光にあずかっておら

れます。それは、霊肉ともども天の 栄光にあげられたイエスの御母であ り私たちの母でもある聖母です。こ れは、私たちが希望し、確信に満ち た楽観主義を貫く理由の一つです。

いつも、何よりも、痛みや疲れ、辛 酸をなめるときには、裏切ることの ない神のこの約束を活き活きと思い 起こしましょう。聖ホセマリアが四 終についての説教で、どのように解 説したかに注目してください。「主 よ。復活することを信じます。御身 と共に私も永遠に治めるため、再 度、私の体と霊魂が一つになること を信じます。それは御身の無限の功 徳と御身の御母の執り成し、そして 御身の私に対する限りない愛による ことです。| [xii] この手紙は悲観的 だなどと考えたりしないで下さい。 全く逆で、私たちが忠実なら、神の 抱擁が待っていることを思い起こし てもらいたいのです。

死者の復活の後、最後の審判があり ます。そこで、私審判の時に決まっ た状態が変わるわけではありませ ん。しかし、そのとき私たちは「創 造の全てのわざと、救いの計画の全 ての究極の意味を知ります。そし て、摂理が感嘆すべき方法で万物を それぞれの究極目的に導かれたこと を理解します。最後の審判は-「カ トリック教会のカテキズム」の結論 -、神の正義は被造物が犯したあら ゆる不正に打ちかつこと、また、そ の愛は死よりも強いことを明らかに します。| [xiii]

必然的に、いつ、どのように歴史の 最後が訪れ、それに伴う物質界の更 新がどのようなものであるか、誰に も分かりません。神がその摂理の ちに収めておられることです。私 ちに求められるのは警戒しているこ とです。 - 主が度々仰せになったよ うに - 、「あなたがたは、その日、 その時を知らない」[xiv] からです。

教皇フランシスコは、使徒信条につ いてのある日の要理指導で審判につ いて黙想するよう勧めておられま す。「恐れることなく、最後の審判 に目を向けることができますよう に。それによって、現在の時をより よく生きるよう促されますように。 神があわれみと忍耐をもってこの時 を与えてくださったのは、わたした ちが日々、貧しい人、小さな人の中 に神を見いだすことを学ぶためで す。善のために努力し、祈りと愛の うちに目覚めているためです。| [xv] 永遠の真理について黙想するこ とは、「神への聖なる畏れ」によっ て私たちをより超自然的なものに し、聖霊の賜物は-聖ホセマリアが 言っていたように-私たちにあらゆ る種類の罪を忌み嫌わせます。この 罪こそは、唯一、父なる神の慈しみ 深いご計画から私たちを引き離して しまうものだからです。

子どもたちよ、この究極の真理を掘り下げて考察しましょう。それによって私たちの希望は増すはです。そして、キリストが約束されてなら、イエス・キリストが約束された永遠の至福のことを考え、困難に大がるようにおいるようになるでしょう。神は私たちに恩恵を拒むことはないのです。

「至聖三位一体とともにあるこの完全ないのち、また至聖三位、おとめマリア、諸天使、諸聖人とのこのいのちの交わりが、『天国』と呼ばれます。天国とは、人間の究極目的、その内奥にある願望の実現であり、この上ない至福の状態なのです。」 [xvi]

「天国。『目が見もせず、耳が聞き もせず、人の心に思い浮かびもしな かったことを、神は御自分を愛する 人々のために準備された。』 使徒パ ウロのこの啓示はあなたを戦いに駆 り立てないのだろうか。」[xvii] 私 はあえて質問を続けます。しばしば 天国に思いを馳せていますか。あな たは、主に限りなく愛されている人 としての希望に満ちていますか。私 たちを決してお見捨てにならない至 聖三位一体に心を挙げましょう。

皆さん、10月18日に教皇様と謁見し たことをご存知でしょう。教皇様と ご一緒するのは何と素晴らしいこと でしょう。教皇様はプレラトゥーラ が世界の各地で推進している使徒職 の事業に愛情を込めて感謝しておら れました。子どもたちよ、このこと も、教皇様とそのご意向、その側近 の方々のためのお祈りを疎かにして はならない理由になります。数日前 のミサ聖祭の第一朗読は、イスラエ ルの指導者・モーセが民のため嘆願 することに疲れないように、アロン とフルがモーセの腕を朝から晩まで 支えていた箇所でした[xviii]。私た ち全てのキリスト信者の役目は、イ

エス・キリストが教会に委ねた使命を 遂行することにおいて、教皇様を、 祈りと犠牲で支えることです。

来たる22日は、聖ホセマリアが1937年のピレネー越えのとき、木彫りのバラを見つけた記念日です。聖マしたのとのでは、聖での出来事らの出来すらの出来すらの出来がある。自だ分かりました。神信教師で司祭政を表したのままなものままに展開することが高いのままに展開することであるより親しく交わるより親しく交わるようにとより親しく交わるようにとなれていることを確信したのだ。

引き続き私の意向のためのお祈りをお願いします。ここしばらく特に、9日に助祭叙階を受ける兄弟たちのために祈ってください。永遠の真理の黙想によって心に満ちあふれた希望と楽観的な態度で王であるキリストの祭日を準備しましょう。そし

て、28日のオプス・デイ属人区設立記念日を主に感謝することです。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

ハビエル

ローマ、2013年11月1日

[i] 聖ホセマリア、『知識の香』129 番。

[ii] 『カトリック教会のカテキズム』988番。

[iii] フィリッピ1,21と2テモテ2,11.

[iv] 『カトリック教会のカテキズム』1010番。

[v] 聖ホセマリア、『道』739番

[vi] 教皇フランシスコ、2013年4月 10日一般謁見の講話。

[vii] 『カトリック教会のカテキズム』1022番。

[viii] 聖ホセマリア、『道』168番。

[ix] 『カトリック教会のカテキズム』991番。

[x] 同上 996番。

[xi] アタナシウス信教38-39。

[xii] 聖ホセマリア、1948年12月13日 説教のメモ。

<u>[xiii]</u> 『カトリック教会のカテキズム』1040番。

[xiv] マタイ25,13.

[xv] 教皇フランシスコ、2013年4月 24日一般謁見の講話。 <u>[xvi]</u> 『カトリック教会のカテキズ ム』1024番。

[xvii] 聖ホセマリア、『道』751番。

[xviii] 出エジプト記17,10-13参照。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2013nian-11yue/ (2025/12/16)